

営農だより 第7号



発行 令和8年7月17日
北駿産米改良推進協議会
JAふじ伊豆御殿場営農経済センター
TEL:0550-84-4820



目標

- ①「米ぬか入り肥料」の施用により、循環型農業の実践
- ②粒張が良く、食味値 80 点以上の良食味米

～出穂が早くなっています！！
出穂後の高温障害にご注意ください！！～

6月から7月前半にかけて久しぶりに梅雨らしく降水量が多い気候となりましたが体調はいかがでしょう？向こう1か月は降水量・日照時間は平年並みで気温が高くなることが予想されております。出穂は7月末から8月上旬の予想です。昨年に比べ生育はやや緩慢となっておりますので今後の管理が「昨年と同じ時期」とならないようお気を付けください。8月は平年より気温が高くなることが予想されています。晴れの日が多くなる予報ですが、夕立や局地的な雷雨にご注意ください。出穂の頃は稲体の水分蒸散量と酸素消費量が最大となります。中干しは終了して、常に土壌が水分を保持している状態を保ってください。水と酸素の両方を必要としますので、間断灌水を実施しましょう。(前回号参照)。

出穂期を把握することは病虫害防除や水管理、刈取り時期を確認するのに重要です。昨年と生育速度が異なりますので、作業や管理のタイミングに気を付けましょう。(※^{しゅつすいき}出穂期：穂が50%出た日で、穂が見え始めた日ではない)

今後の重要な管理として、品質を落とさないためにカメムシ防除及び水管理が重要となります。裏面や前回号を参考にしながら適期のカメムシ防除及び水管理をお願いします。

暑い日が続きますのでこまめな休憩と水分補給を心がけ、体調管理に気を付けましょう。

【御殿場の気象】アメダスデータ御殿場

項目 期間	平均気温 (℃)			日照時間 (hr)			降水量 (mm)		
	本年	平年	差	本年	平年	%	本年	平年	%
4月 計	13.7	11.5	2.2	161.8	161.3	100.3	328.5	252.6	130.0
5月 計	17.2	15.9	1.3	201.0	158.6	126.7	264.0	243.7	108.3
6月 計	19.3	19.2	0.1	93.9	103.0	91.2	459.0	312.5	146.9
7/1～5日	20.3	21.5	▲1.2	1.9	14.8	12.8	108.0	73.9	146.1
6～10日	21.3	22.1	▲0.8	26.1	16.8	155.4	9.0	71.7	12.6
11～15日	24.7	22.6	2.1	27.2	18.4	147.8	0	60.6	—
7月前半 計	22.1	22.1	0	55.2	50.0	110.4	117.0	206.2	56.7

水稻栽培履歴管理簿回収について（カントリー・ライス保有米含む）※必ず提出

令和8年産 水稻栽培履歴管理簿（1品種につき1枚記入）

上記管理簿を8月下旬に部農会で回収させていただきますので、必ず記入をお願いします。用紙を紛失された方は、最寄りの営農経済センターまでご連絡ください。

【管内水稻生育状況】

(目標茎数 324 本) 7月14日(火)現在

場所	標高 (m)	田植 え日	茎数 (本)	茎数/ m ²	目標茎数 (%)	分げつ 数(本)	草丈 (cm)	葉齢	葉色	出穂 予測
神山	280	5/6	23.1	414	127.8	6.8	76.1	12.5	4.5	7/26
吉久保	370	4/30	23.3	363	112.0	7.1	72.2	13.2	3.7	7/26
大堰	400	5/4	26.1	399	123.1	8.4	72.6	12.0	4.8	7/31
用沢	460	5/9	21.4	325	100.3	5.5	69.3	12.3	4.0	8/2
中畑	550	5/5	31.3	485	149.7	8.7	69.8	12.5	4.7	7/29
上柴怒田	610	5/10	26.9	369	113.9	8.4	69.5	12.2	5.1	8/4
平均			25.4	392.5	121.1	7.5	71.6	12.5	4.5	
R7 平均			24.0	377.5	116.5	7.4	83.6	13.4	3.7	

今年は久しぶりに梅雨らしい気候となり、中干しが思ったように進まないほ場が散見されました。葉色が濃かったり薄かったり、穂肥や今後の水管理に不安がある方は裏面もしくは前回号を参照にしてください。お近くの営農経済センターへご相談ください。

水稻生育巡回結果

コシヒカリの出穂は昨年と比較し1～2日遅い予想です。

7月2日から7月11日まで、御殿場市・小山町管内ほ場を地区・部農会ごとに生育巡回を実施しました。結果は下記のとおりです。(今後の気温次第で出穂時期が予想と前後することがあります。)

【コシヒカリ出穂予想】(生育巡回調査結果より)

支店	地区	本年出穂予想	R7 出穂予想	支店	地区	本年出穂予想	R7 出穂予想
富士岡	全地区	7/29	7/30	北郷	下古城	7/27	7/27
原里	全地区	7/26	7/28		吉久保	7/29	7/27
印野	全地区	8/1	7/30		大胡田	7/26	7/28
玉穂	全地区	7/31	7/28		用沢	8/1	7/28
御殿場	東山	7/28	8/1		上野	7/30	7/31
高根	古沢	7/28	7/26		阿多野	7/30	7/30
	大堰	7/29	7/27		一色	7/31	7/30
	上小林	8/4	8/3		大御神	8/4	7/30
	清後	7/30	7/30		中日向	7/31	7/27
	山之尻	7/31	7/29	足柄	所領・宿	7/23	7/24
					桑木・新栄・向方	7/26	7/22
				小山	成美	7/29	7/25
					明倫	7/27	7/23

自身のは場の出穂期を確認しましょう。カメムシ防除、今後の水管理は裏面または営農だよりの前回号を参考に行ってください。

◆ 穂ばらみ期の水管理 ◆

穂ばらみ期（出穂 10～7 日前）から出穂期（ほ場の 5 割程度出穂）にかけて稲体の水分蒸散量と酸素消費量が最大となります。ほ場の出穂期を見極めて、この期間は土壤水分が不足しないようにしてください。その後、酸素供給も兼ねて適切な間断灌水の徹底により稲体を健全に保ちましょう。

Point ※水は限られた資源です。みんなで協力して使いましょう！！

① 夜間の水のかけ流し（走り水）により、ほ場温度を下げる。

（昼間のかけ流しは不要）

② 出穂時は稲が最もエネルギーを消費する時期です。穂ばらみ期～開花期（出穂前後 5～7 日）は湛水（浅水程度）状態にしましょう。

その後間断灌水の徹底。稲の根に酸素を与え、登熟を向上させる。日中の高温時には特に水を溜めないようにしましょう。

湿田については収穫作業を見据えた管理を優先してください。

★出穂直前から出穂期：3～4 日間湛水状態を継続し、自然落水後田面が乾く前に入水

★出穂期以降の水管理：落水時期までは 2～3 日で水がなくなる程度に入水し、自然落水後、田面が乾く前に入水する。

重 要

～ 出穂後 25 日までの水管理 ～

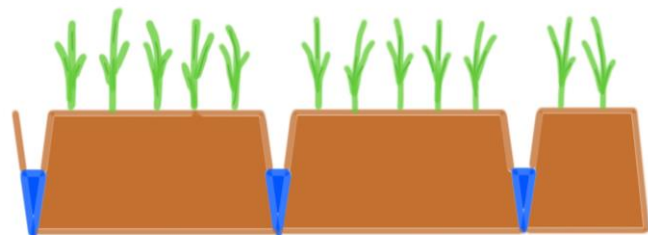
◆ 水管理のポイント ◆ 酸素と水が必要な時期です (80%湿っていれば良い)

出穂前後は湛水管理を行ってください。出穂期以降は酸素も供給するため間断灌水を実施します。**長期の湛水は病害の発生や根を傷めるので気を付けましょう。**また刈取り前の落水を早めると根の機能が低下するため、稲全体の活力が低下し、枯れ上がりを加速させます。稲全体の活力低下は着色粒の発生を引き起こし、枯れ上がりは籾の水分が急激に下がるため胴割れ粒の発生も助長します。コンバイン収穫に支障がない限り、落水時期を遅らせる事が重要です。

【方法 1】溝切りした溝だけに入水する。

（田面には水が乗らないように、溝に常時入水する）

- ・草丈伸長抑制による倒伏軽減。
 - ・出穂後遅くまで根に水・酸素を常時供給できるので登熟が良くなる。下葉が枯れにくい。
 - ・溝以外は乾き、コンバイン作業も可能となる。
- 入水口は溝とつなげるが、出口はつなげない。
（水を溜めるため）



溝にだけ水を入れる。根に酸素と水が供給される。田面に水が乗らないので乾きやすい。

【方法 2】間断灌水

①水をさっと流し、ほ場内に水を溜めない。

②水が自然落水して、ヒビが入る直前に入水。



注意
端まで水が行き渡るまで、しっかりと目を確認しましょう。

溝切りしていない場合、端まで水が行き渡っていないことがあります。

◆ 登熟期の水管理 ◆

出穂期・登熟期間は水を必要とします。玄米は初めに長さ、次いで幅、最後に厚みが決まります。

長さ：開花後およそ 5 日頃

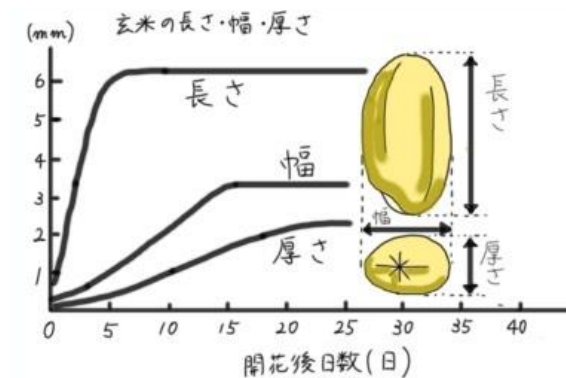
幅：開花後およそ 15 日頃

厚み：開花後およそ 20～25 日頃

早期に落水をしてしまうと、粒張りのない米となってしまいます。

左図の〔方法 1〕〔方法 2〕を行い、常に土壤が湿っている状態を保ちましょう。

（最低 25 日間は落水しない）



【ほ場水分の様子】

土を握って水が出てくれば大丈夫です！

高温障害に気を付けましょう

今年の 8 月は平年より高温になることが予想されています。出穂後の気温により高温障害が懸念されますので、天気予報を確認しながら水管理により高温障害を予防しましょう。

温暖化の影響とされる水稻事象

①白未熟粒の増加…水稻の蒸散に対して吸水が追いつかず生育が止まる。また夜間の高温時に稲の呼吸が促進され、日中に生産したデンプンが根や穂に届かなくなる。これにより粒に空気の層ができ、白未熟米となる。

②胴割れ米の増加…完熟した米粒内の急激な水分変化により内部圧力の不均衡が大きくなると胴割れが生じる。登熟初期の温度条件が関与している。

③カメムシの増加…温暖化により産卵数が増加し、また世代交代の回数も増加するためカメムシの個体数が増え、斑点米被害も増加する。

出穂後 10 日間の間：最高気温が 35℃を超えると胴割れ発生の危険が高まる。

出穂後 20 日間の平均：最高気温 32℃、平均気温 27～28℃、最低気温 23～24℃を超えると白未熟粒が発生しやすい。

水田カメムシ防除について

穂がほ場全体で 80～90%出た時期（穂揃い期、成虫侵入期）とそこから 7～10 日後（幼虫ふ化期）の 2 回薬剤散布を行うと防除効果が高まります。

草刈り終了		出穂期	穂揃期	成虫防除	乳熟期	成虫防除	黄熟期
出穂	10 日前	0 日	3 日	7 日	10 日	15 日	25 日後
		第1回目散布 トレボン粉剤 DL		スタークル散布 スタークル1kgH 粒剤		第2回目散布 トレボン粉剤 DL	
クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		イネカメムシ		以上のポイントを押さえ、斑点米低減を目指しましょう。 ※「イネカメムシ」を発見したら、地区営農販売課へご連絡ください。(84-4820)	